

図書館だより 11月

木々が色づいて秋の深まりを感じますね。「秋読」を楽しんでいますか？先日読書週間が終わりましたが、読書はそのまま継続してくださいね。

4～9月までの読書冊数(1・2年)は、**1年生 2328冊 (1人平均 6.5冊)**
2年生 2941冊 (1人平均 8.5冊)、**全校 5269冊 (1人平均7.5冊)**でした。目標の1人平均10冊以上を目指して、日々読書に励んでください。すでに目標を達成しているクラスもあります。(108 12.3冊、203 13.0冊、207 10.3冊)すばらしい！

朝の読書の時間(10分間)は、落ち着いた雰囲気を読書ができるように、クラス全体で取り組んでいきましょう。

図書館委員会より

図書委員会では、今年も10月27日～11月2日(土・日除く)の5日間、読書週間&ハロウィンイベントを行いました。本を借りてくれた人にはお菓子と手作りのしおりをプレゼントしました。図書室では当番の図書委員がハロウィンの仮装をしてお出迎え！あちこちにつるしてある「くるくるおばけ」は図書委員が作りました。



図書委員もハロウィンを演出→

←図書委員がハサミでチョキチョキした「くるくるおばけ」

プレゼントのしおりは全部で12種類→



このイベント中(昼休み)に図書館に来てくれた人は**60人**、貸出冊数は**66冊**でした！これからも積極的に図書室を利用してください。

お願い



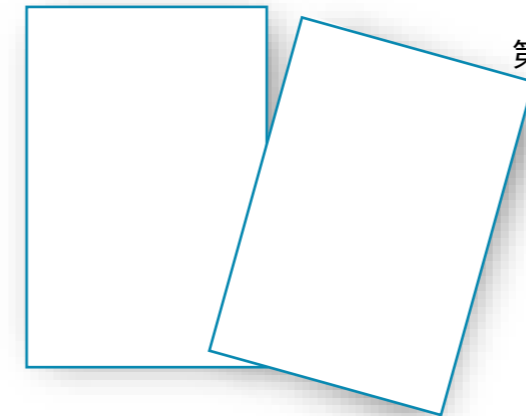
図書室の本の貸出期間は2週間です。それ以上借りる場合は、貸出延長の手続きをお願いします。



実りの秋！ 愛媛出身の作家紹介



ノーベル賞を受賞した**大江健三郎氏**(内子町出身)を筆頭に、愛媛出身の作家はたくさんいます。また、夏目漱石の『坊ちゃん』など、愛媛を舞台にした作品も多いです。図書室にもありますので、ぜひ読んでみてくださいね。



第167回芥川賞を受賞した**高瀬隼子氏**(新居浜市出身)。ほのぼのした表紙の雰囲気には騙されてはいけません。日常のモヤモヤした違和感をちょっと毒のある視点で描きます。

ホラー、ミステリー、サスペンスから社会派小説まで幅広く執筆している**宇佐美まこと氏**(松山市出身)。小説の舞台が松山市のもの多数あります。



現代ショートショートの名手、**田丸雅智氏**(松山市出身)。「坊ちゃん文学賞」の審査委員長も務めています。

鴻上尚史氏(新居浜市出身)は劇作家、演出家としても有名。若者向けの新書も多数あります。読むと心が少し楽になりますよ。『愛媛県新居浜市上原1丁目三番地』は自伝的小説です。



心に傷を負った人の思いに寄り添う作品が多い**天童荒太氏**(松山市出身)。影響を受けた大江健三郎氏が亡くなった時、「石鎚山のような大きな存在」とその尊敬の念を表現しました。『巡礼の家』は道後温泉が舞台です。

他にも『道後温泉湯築屋シリーズ』で人気の**田井/エル氏**、2016年から2022年まで愛媛に移住し、『八月の母』や『かなしきデブ猫ちゃん』など愛媛に着想を得た作品を発表した**早見和真氏**など、愛媛ゆかりの作者も多数。読んで愛媛を感じよう！